


看護 青い森

vol.
116
発行日
2023.10.16



令和5年度 会員数 8,516人 (昨年10月比 -70人) (令和5年9月29日現在)	保健師 211人 昨年10月比 -16人	助産師 327人 昨年10月比 ±0人	看護師 7,672人 昨年10月比 -37人	准看護師 306人 昨年10月比 -17人
---	-------------------------	------------------------	---------------------------	--------------------------

■発行 /  公益社団法人 青森県看護協会 ■編集 / 広報出版委員会
■住所 / 青森市中央三丁目20番30号 県民福祉プラザ3階 TEL (017)723-2857 FAX (017)735-3836
URL <http://egao-park.net> E-mail ao.nurse@ceres.ocn.ne.jp

Part I 令和5年度「新卒看護職指導者交流会」 新規事業

これまで新卒カフェや管理者と養成校教員との情報交換会等を開催してきましたが、実際に現場で新人を指導する方の意見を直接聞き、指導者を支援したいと考え、7月10日(月)県民福祉プラザにて、「新卒看護職指導者交流会」を開催しました。新卒看護職の指導者24名が参加しました。

前半は、ツナグ働き方研究所の平賀充記氏を講師に、リモートで「今どきの新人教育のコツ！～若手看護職の気持ちを理解するために～」と題して講演を行いました。平賀氏は、Z世代の特徴を「すぐに折れるし褒め方も難しい」「それって意味ありますか？が口癖」「ITに疎いと露骨に嫌な顔をする」等を挙げ、大きく頷く参加者の姿が印象的でした。また職場における支援のあり方やコミュニケーションのヒントについて話されました。



Part II 令和5年度「新卒看護職カフェ」

7月22日(土)に、ホテル青森で新卒看護職を対象に「新卒看護職カフェ」を開催しました。今年度は青森会場での開催とし、39名が参加しました。看護師等学校養成所教員にファシリテーターをお願いし、4つのキーワード(楽しかったこと、辛かったこと、悩んでいること、やってみたいこと)についてグループで話し合い、思いを共有しました。

参加者からは、他病院の新卒看護師と交流を図ることができ、同じような悩みや辛さなどの思いを共有する機会となり、心が軽くなったとの感想が聞かれました。また、歓迎会や同期会に参加したことでスムーズに職場適応できた、との発表もありました。しかし、指導者によって看護技術の教え方や報告のタイミングなどに違いがあり、混乱しているとの意見もありました。

ファシリテーターから、相談できる人を見つけ気持ちを出さず、小さな失敗は成長の糧となる、1カ月前の自分と比較し自己肯定感を高めるなどのエールが送られ、会場から拍手が湧き上がりました。

楽しかったこと	一回で血管確保ができた、先輩が歓迎会を開いてくれた。
辛かったこと	時間内に終わられず先輩に迷惑をかける、先輩により指導方法が異なり混乱する、同期と比較される。
悩んでいること	仕事が覚えられず何回も聞いてしまう、忙しそう先輩に声をかけづらい、勉強する時間が取れない。
やってみたいこと	患者と関わる時間を増やしたい、認知症・緩和ケアの認定看護師への挑戦。



防止対策事業



後半は、グループに分かれフリートークをしました。指導者として悩んでいることは、
「世代間のギャップを感じ、打ち解けるのに指導者側も必死」
「直ぐ折れる新人への指導加減が難しい」
「スタッフが“普通はこうである”と意識が変わらない」
など、Z世代の指導に苦心しながらも、受容的ではないスタッフについての悩みも発表されました。
今後の支援方法は、
「新人の特徴を理解し一緒に学び、共に成長していく気持ちが重要」
「先輩たちにも今の新人に合った指導方法があることを伝えたい」
「チーム全員で育てる認識と協力し合える職場環境づくり」
など、指導する側の意識改革や関わり方を見直す前向きな発表がありました。

慢性的な人員不足と新卒看護職の採用が厳しい看護の現場で、指導者だけでなく職場全体が一丸となって受容的に支援する体制を講じることで、新卒看護職が看護の楽しさややり甲斐、自分の居場所を早く見つけられるのだらうと思いました。



Part III 令和5年度「2年目看護職カフェ」

8月9日(水)八戸プラザホテルにて昨年度に続き「2年目看護職カフェ」を開催し、25名が参加しました。神奈川県立保健福祉大学の吉田穂波氏を講師に迎え、「あなたは、頼っていい～受援力のススメ～」と題して、講演とコーヒープレイクを挟みながらグループトークを行いました。
講演では、参加者が受援力スコアで自分の受援力を確認し、助けられ上手になるポイントを学び、実際にゲームで受援力を体験しました。困っていることを声に出す、業務をお願いする、感謝の気持ちを言葉にして伝える等、参加者は受援力の大切さやそのスキルを活用しどのように仕事

に活かすかを学び得ている様子でした。

また講師の先生から、「ピンチの時に頼りにするのは誰か」、「落ち込んでいる時に、自分の話を聞いてくれるのは誰か」のテーマが出され、自分の背中を押してくれる人の存在に改めて気づく機会にもなっていました。参加者には、「自分の責任であっても困った時は助けを求めてもいい、頼ることは繋がることで新しいネットワークを作れる」ため、一人で抱え込まず「助けて」と言い合える仲間をつくり、2年目を乗り越えて欲しいと思います。



看護大学等進路説明会

令和5年7月29日(土)、県民福祉プラザ4階県民ホールにて、看護大学等進路説明会が行われました。参加校は弘前・青森・下北・五所川原・八戸から15校、87名の高校生が参加しました。

冒頭の挨拶で青森県看護協会 榎谷会長は、新型コロナ等の危機的な社会情勢の中、看護が注目され、あらためて看護の価値を示す機会となったこと。看護師の仕事は決して楽ではないが、やりがいも大きく尊い仕事であると述べ、進路選択を自身の価値観を見つめ考えを整理する機会としてほしいと締めくくりました。

進路決定から受験対策と題してそれぞれ看護師、助産師、保健師と目標の異なる看護学生3名より、目指したきっかけや学校の選び方、高校生活の過ごし方、受験対策が発表されました。参加者は集中した様子でメモを取りながら発

表を聞いていました。発表後に質疑応答の時間があり、即座に1人の参加者が挙手し「入学後に特に身につけるべき能力はありますか」と質問がありました。発表者より、実践力やコミュニケーション能力、毎日継続すること、言語化し伝えること、時間管理という返答があり、質問者は参考になりましたと質問を終えていました。

個別相談ブースでは参加者がそれぞれ希望する学校の担当者より説明を受け、スクラブの試着体験も実施しました。「自分が行きたい学校の先輩がいて、自分がどうやって試験に臨むのか、学校に入る前も入った後も計画性が大切なことが分かった」「現場でこういうのを着て働いているんだと感動した」などの感想を話されていました。

記：広報出版委員 佐野 央(藤代健生病院)



を目指して!!

『高校生一日看護体験』実施!

県内の高校生たちに、将来看護職を目指していただくために、そして、“看護”にふれあっていただくために、『高校生一日看護体験』を実施しました。今年は377人の参加申し込みがありました。県内40か所の病院にご協力いただき、おかげさまで無事実施することができました。

予定よりも多くの受け入れをしてくれたり、体験日数を増やしていただいたり、体験内容に様々な工夫を凝らしていただいたりと、関係者の皆さまにはお忙しい中ご協力いただき本当にありがとうございました。



【実施病院一覧】

No	施設名	受入 日数	受入 総人数	日 程
1	国立病院機構青森病院	1	10	8/1
2	青森県立中央病院	1	20	7/26
3	青森市民病院	1	15	8/4
4	平内中央病院	1	4	7/27
5	青森慈恵会病院	9	72	8/1～4、 8/21～25
6	青森厚生病院	1	8	8/3
7	青森新都市病院	1	8	7/28
8	村上新町病院	1	3	8/18
9	生協さくら病院	1	20	8/3
10	あおもり協立病院	2	40	7/29・7/31
11	国立病院機構弘前総合 医療センター	1	8	7/28
12	弘前大学医学部附属病院	1	20	8/17
13	黒石病院	2	10	8/9・8/10
14	板柳中央病院	1	2	7/3
15	弘前記念病院	1	6	8/3
16	健生病院	1	2	8/9
17	藤代健生病院	1	2	8/2
18	国立病院機構八戸病院	1	10	7/26
19	青森労災病院	1	10	7/27
20	八戸市立市民病院	2	60	7/24・8/7
21	五戸総合病院	1	2	8/9

No	施設名	受入 日数	受入 総人数	日 程
22	三戸中央病院	1	4	8/1
23	おいらせ病院	2	4	7/26・7/27
24	八戸赤十字病院	1	14	7/28
25	メディカルコート八戸西 病院	1	10	7/26
26	室岡整形外科病院	2	4	7/25・7/28
27	八戸平和病院	1	4	7/27
28	つがる西北五広域連合 つがる総合病院	1	21	7/31
29	つがる西北五広域連合 かなぎ病院	1	4	8/18
30	白生会胃腸病院	1	4	8/2
31	むつりハビリテーション 病院	6	24	7/24・25・ 27・28、 8/7・8
32	大間病院	1	2	8/1
33	むつ総合病院	1	20	8/4
34	十和田市立中央病院	1	30	8/9
35	公立七戸病院	2	8	8/8・8/22
36	十和田第一病院	2	2	7/26
37	十和田東病院	1	3	8/2
38	ちびき病院	1	2	7/31
39	三沢市立三沢病院	2	20	7/19・7/20
40	公立野辺地病院	1	5	7/28

日本看護協会委託事業 「看護補助者キャンペーンウィーク事業」



看護補助者の確保・定着にむけて

～質の高い看護を提供するため！看護補助者と看護職の協働を推進しています～

『看護補助者お仕事説明会＆体験会』開催!!

◆看護補助者の確保・定着推進を目指し、8月20日(日)～8月26日(土)をキャンペーンウィークとし、8月22日(火)に看護補助者体験ツアーを実施しました。今回はモデル的に青森市内で開催し、青森県立中央病院のご協力のもと2名の方が補助者業務を体験しました。1名はその後、看護補助者として就業が決まりました。



今年度も開催！ 看護補助者レベルアップ研修会開催



◆8月3日(木)、県民福祉プラザにて、医療現場で安全に業務が遂行できるよう、看護補助者の資質向上を図ることを目的に開催し、42人の参加がありました。当協会長の柗谷から「看護補助者として働く皆さんへ」、青森県立中央病院感染管理認定看護師の赤平恵美氏から「確認しよう！標準予防策」の講義のあと、フリートークを実施しました。途切れることなく続くトークでしたが、情報交換ができ、他施設を知って改めて自施設での業務を見直す機会となっていたようです。



新規事業 「保育所等における看護職員等の資質向上推進事業保育施設における感染管理スキルアップ研修」を開催します

10月19日(木)
弘前プラザホテル

11月6日(月)
県民福祉プラザ

11月20日(月)
八戸プラザホテル

保育士さんも歓迎～



◆「産科混合病棟における助産師のケアのあり方と教育」研修会

令和5年7月8日(土)ホテル青森にて開催

神戸大学大学院保健学研究科 母性看護学分野の齋藤いずみ教授にお越しいただき、産科混合病棟の現状・課題をお話ししていただきました。その後、先生の講義を踏まえ、参加者の自施設の現状・課題等についてグループワークをしました。参加者は24名でしたが、齋藤先生にも加わっていただき、とても活発な意見交換ができました。



◆ 助産師のための超音波検査技術研修

初めての
技術研修開催！

令和5年8月19日(土)アートホテル青森にて開催

「助産師に期待されるエコー検査技術」と題して、八戸市立市民病院の下斗米久美子氏より講義いただいた後、シミュレーターを使用しての技術研修を行いました。講師は、青森市民病院の臨床検査副技師長 新山聖子氏、同じく臨床検査技師の山内亜依氏にお願いしました。

初級編として、2つのグループに分かれ、事前に学びたいことを聞き取りし、それに応える形で、1人ずつエコー技術を教えていただきました。とても濃密な充実した研修会で、参加者の満足度も非常に高いものでした。



どの角度で当てているのか人形を使ってわかりやすく解説しながらすすめてくれました

令和5年度 潜在看護職等スキルアップ研修

7月～8月に青森・八戸会場において、未就業及び新卒等の看護職が静脈注射に係る知識・技術の習得と再就職のモチベーションを高めることを目的に「潜在看護職等スキルアップ研修」を開催しました。看護職30名が参加し、静脈注射・筋肉注射のシミュレーターを使い、

実際に演習を行いました。ブランクがあり手技に自信がなかったが、演習と講義で感覚がつかめた、早く仕事に復職したい、最新の医療材料に触れて勉強になったなどの感想が聞かれました。



医療的ケア技術研修（保育所勤務看護職対象）

令和5年8月28日（月）リンクステーションホール青森において、第2回医療的ケア技術研修が開催されました。参加者は、保育園や訪問看護ステーションに勤務する看護師15名で、そのうち半数以上が医療的ケア児と接しているとのことでした。

始めに、こどもみらい課担当者より医療的ケア児についてと医療的ケア児支援に関する政策、青森県の現状と取り組みについて話されました。

次に、青森県立中央病院成育科副部長である大瀧潮氏より、小児在宅支援センターの活動について紹介がありました。センターでは実際に自宅や施設等に直接出向しており、「切れ目のないケアを次のライフステージに繋

げていくことが大切である」と述べられました。

最後に、小児看護専門看護師である奥寺さおり氏と、ほ～むおんナースステーション管理者である雪田昇一氏より、喀痰吸引の手技やシミュレーターを使用しての心肺蘇生AEDの操作方法の演習が行われました。現在のAEDは1歳から使用できることを学び、救急隊が到着するまで心臓マッサージをし続けることの重要性を再確認していました。

参加者からは、「このような技術研修を受けたいと思っていた。八戸でも開催してもらえると嬉しい。また参加したい。」との声が聞かれました。

記：広報出版委員 下山江梨花(青い森病院)



あなたも地域応援看護職 『青森ともナース』として 働いてみませんか？

今年度、当協会では日本看護協会の委託を受けて、『地域に必要な看護職確保推進事業』を実施しています。この事業は看護職不足が顕著な医療機関へ短期就労してくれる看護職を登録・マッチングする事業です。今年度は、**大間病院**へ就労（1か月以上）してくれる方を募集しています。

大間病院では、居住や生活環境・労働環境において準備を整えてお待ちしております。1か月や2か月間の限定でも大丈夫です。具体的な内容については事前に打合せや見学をして相談することが可能です。

大間病院のみなさん▶



「看護職のための労務管理セミナー」開催 (看護労働環境対策委員会企画)

おめほの
労務管理
どしてら？

令和5年9月9日(土) リンクステーションホール青森にて、労務管理を正しく理解し、働きやすい環境をつくることを目的にセミナーを開催しました。

参加者は55名で、青森県医療勤務環境改善支援センターの医業経営アドバイザー 齋藤勝美氏、社会保険労務士 永野ひとみ氏のお話を聞き、自施設の労働状況に

ついて、あらためて考える機会となったようです。事前に頂いた質問を事例とし、参加者たちはどう考えるか白・黒・グレーの色紙で意思表示をしながらの楽しいセミナーでした。労働環境改善に向けて今後も継続して学び合っていきましょう。



認定看護管理者教育課程ファーストレベル無事終了！

令和5年度認定看護管理者教育課程ファーストレベルが、5月16日から7月14日までの20日間で、91名の受講者を迎えて実施されました。

受講人数が多いこともあり、特にグループワークを行うと賑やかでしたが、開講直前に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、マスク着用は個人の判断としました。しかし、それぞれがきちんと感染対策を実施してください、無事に研修を終了出来ました。

閉講式後に全員で記念撮影を行いました。皆さんのやり切った感満載の笑顔を見ると、大変な中にも充実していたのではないかと拝察いたします。

ファーストレベルは毎年実施しています。管理を学びたい、知識を深めたいと思う皆さん、受講をお待ちしております！



閉講式の写真です。今年度は91名なので2チームに分けて撮影しました *同じ写真ではありません(笑)

認定看護管理者教育課程セカンドレベルが開講しました!!

今年度より、認定看護管理者教育課程セカンドレベルが青森県看護協会で開催されました。7月24日より40名の受講でスタートしました。



開講式

セカンドレベルは10月11日まで2回のインターバルをはさみ33日間の研修になります。青森県内25施設の受講者の皆さんが、看護管理者として、基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を習得する予定です。今年の夏は猛暑でしたが、負けずに楽しく学びを深めています。

また、実習・演習を通して自部署の改善計画立案に向けて日々思考をめぐらせています。

皆さんが無事にセカンドレベルを終了し、課題達成できるよう支援していきます。

記：認定看護管理者専任教員 今井美佳子・松本 誠子



あたらしい生涯学習がスタートします！

「はたらく」を支える「まなび」
一人一人が望む将来の姿(ビジョン)を
描くために、サポートブックで学び
の計画を立てよう!!

看護師としての「なりたい自分」はどのような姿でしょうか？
将来の自身の姿を描き、その実現に向かって自分の人生を切り開いていく手法として生涯学習があります。

日本看護協会では、看護職の生涯学習ガイドライン・生涯学習支援ガイドブック・看護師のまなびサポートブックを作成して令和6年度より生涯学習を進めていきます。それに伴い、青森県看護協会でも令和6年度の教育計画の見直しを進めていく予定です。

医療対話推進者養成セミナー ～医療コンフリクト・マネジメントアプローチ～ 基礎編研修(2日間16時間)を開催しました。

看護職は、日々、患者・多職種など多様な人々と関わり、よく人の話を聞き、人に話をしていると思います。

そんな皆さんから、「医療対話」を本格的に学びたいとのご要望を頂き、日本医療メディエーター協会 認定シニアトレーナーの伊藤達朗先生(国保葛巻病院 院長)に、昨年の一般研修会で講師をお願いして以来、当協会主催で、やれるかなどうかな、とご相談させていただいておりました。

伊藤先生と同じく認定シニアトレーナーの依田明久先生のご登壇が叶い、2023年7月22日～23日と2日間の基礎編セミナーを開催することができました(ご尽力に感謝)。

受講者は26名。夏休み最初の土日を使って、集合。緊張から、硬くなっている皆さんを、講師の先生方は、穏やかな口調と演習を交えて解きほぐしながら、白熱したロー

研修の様子▶



ルプレイに誘っていきます。

2日間、講義と導入の演習、ロールプレイ4つをこなした皆さんからのアンケートでは、76%が「非常に良かった」、24%「良かった」、さらに学びたいかの問いに「非常に思う」28%、「思う」68%、知り合いに勧めたいかの問いに「勧めたい」72%、「どちらかといえば勧めたい」28%と大変満足の結果に。

研修受講後は日本医療メディエーター協会(ホームページ <http://jahm.org/> 問合せ先:jahm_contact@yahoo.co.jp)へ入会し、院内医療メディエーターに認定の手続きができません。皆さま大変お疲れ様でした。

新たな災害支援ナースが始まります

災害だけでなく新興感染症にも対応できる看護職の確保を目指す行政の方針を受けて、令和5年度より新たな「災害支援ナース」の育成を始めています。これに伴い、これまで行ってきた現行の災害支援ナース派遣の仕組みは、2023年度をもって終了することになります。現行の災害支援ナースの活動体制につきましては、令和5年度は継続となりますが、令和6年4月からは、改正感染症法・医療法のもと、新プログラムで災害支援ナース養成研修を受講した災害支援ナースが活動することになります。

現行の災害支援ナースの方で、新たな災害支援ナースへの登録を検討される方も、新プログラムの災害支援ナース養成研修を改めて受講する必要があります。

新たな災害支援ナースに関するQ&A

No.	質問	回答
1	免除要件にある災害看護に関する研修・訓練とは？(フォローアップ研修や青森県総合防災訓練は該当するのか)	日本看護協会に確認したところ、免除要件に該当します。
2	2022年に実務編まで終わっていますが、登録手続き中の場合は該当しますか？	2022年に実務編まで受講した方のみ免除要件に該当します(日本看護協会に確認済み)。
3	今年度の研修を受講しない場合はどうなりますか？	現行の災害支援ナースは令和5年度末で終了となります。「新たな災害支援ナース養成研修」を受講し、「災害・感染症医療業務従事者」として登録する必要があります。
4	次年度も研修予定はありますか？	次年度も研修を実施する予定です。

研修を申込される方は manaableの個人登録 が必須です

看護協会会員の方は個人登録が未登録でも、施設申込で研修申込はできますが、リモート研修の参加や、研修の急なお知らせなど、未登録のままだと不都合なことが多々ありますので、お早めにご登録をお願いします。

詳しくは、10月28日リモート開催の教育懇談会で説明いたします。是非、皆さん、ご参加ください。教育懇談会への参加申し込みは、ホームページ「マナブル」よりお願いいたします。

日本看護協会のホームページ▶
からダウンロードできます



保健師の資質向上と情報交換のための交流会

令和5年9月11日(月)にアピオあおもり2階イベントホールにて、保健師の資質向上と情報交換のための交流会を青森県と共催で開催し、県内の行政保健師・産業保健師など81人が参加しました。

講演では参議院議員(看護師・保健師・弁護士)の友納理緒氏より、「情報開示請求に耐えられる記録の書き方」をテーマにお話いただきました。情報開示請求の流れや保健師記録の定義や意義、記録のポイントについて講演をしていただき、普段の業務における記録の書き方について振り返ると共に、今後の記録の在り方について再確認することができました。

その後の交流会では「講義を受けての振り返りをしよう～解決できたこと・気づいた課題～」について、各グループに分かれて意見交換を行いました。現在の記録の仕方や

導入しているシステム・記録の管理方法について共有し、講義を受けて解決できたこと・気づいた課題について参加者同士で話し合いました。発表の場面では各市町村により記録の様式・システムや回覧方法が違うことが明らかになり、記録の際には一人ひとりが記録の書き方について日頃から意識をすること、記録する時間が確保できない際は帰宅時間を調整し記録を整理するという意識が大切であるという意見等がありました。

新型コロナウイルス感染症が5類となってから初めての参集型での研修会で、お互いの顔が見える中で意見交換ができたことによって、実りある研修会となりました。

今後も保健師職能委員会の企画研修へのご参加お待ちしております。

保健師職能委員会 畑中 彩美



講師の友納先生



GWの発表の様子



GWの様子

産後ケア事業推進交流会

令和5年9月2日(土)、アピオあおもりにおいて青森県主催、青森県看護協会 助産師・保健師職能委員会合同企画である産後ケア事業推進交流会が開催され、63名の参加がありました。

前半はオンライン講演にて「産後ケア推進に向けて」と題し、国家公務員共済組合連合会 東北公済病院 産科・母子センター 看護部長 高橋有希氏より、産後ケア(宿泊型)の利用実績や利用者の現状についてお話がありました。支援者不足の複雑化、里帰りの方が利用できない状況、月齢が進んだ児の預かりの難しさなど産後ケアの課題はあるが、利用者の育児不安の解消や心身の回復につながり、今後の育児に前向きになったとの意見をいただいているとのことでした。また仙台市では電子申請も可能で、休日を含む緊急時であっても、申請即日遅くとも2、3

日で対応可能であることも知ることが出来ました。

後半の情報交換では、産後ケア事業をより利用しやすくするための取り組みについて八戸市保健所すくすく親子健康課母子保健グループ 技査 佐々木望氏、クリニックにおいて宿泊型産後ケアの県内第1号となった苫米地レディースクリニック 師長 苫米地沙織氏・助産師 安藤綾子氏、産後のママたちに心から寄り添うケアを提供しているmy.josan-in PEANUT 代表助産師 古川久子氏より情報提供がありました。

青森県の産後ケア事業の推進が進んでいる今、すべての女性が住み慣れた地域で安心して安全に妊娠・出産・育児ができる様に助産ケアを提供していきたいと思える研修会でした。

助産師職能委員会 菅原 千枝



講師の高橋先生



参加者からの質問も多く出ました



情報提供者の皆様

介護施設で働く看護師の病院研修

看護師職能委員会 I では、令和3年度から介護施設・病院で働く看護師同士の情報共有・連携強化を目的に、介護施設で働く看護師の病院実習を実施しています。

今回、令和4年度にコロナ感染症の影響で延期となっていた三八圏域の五戸総合病院と三戸中央病院の2施設の研修を実施いたしました。当日は認定看護師と共に褥瘡の処置、感染対策などについての見学実習や地域医療連携室で入退院支援について説明をしていただき、見学後の意見交換では「新しいタイプのインスリン注射は見た事がなかった。説明を受け不安なくケアできそうです。」「自施設の図面を持参、コロナ禍で行っていたゾーニングが間違いではなかった事が確認でき参考になりました。」などの意見が

ありました。病院側からも「施設の状況を知ることができて良かった。同じ地域で働く看護職として何かあったらいつでも相談してください。」と発信があり、とても有意義な研修会になりました。

地域で活躍する看護職が繋がり連携する事で、患者・利用者が安心してケアを受けられるだけではなく、看護の質向上が期待されます。今年度は中弘南黒圏域と下北圏域で実施します。これからも看護師職能委員会 I では、看護師が互いの役割を理解し、連携強化ができるように取組んでいきたいと思ひます。

看護師職能委員会 I 福沢 麻紀



五戸総合病院での病院研修



三戸中央病院での病院研修

看護小規模多機能型居宅介護に関する学習会

看護師職能委員会 II では、令和5年8月19日(土)に「看護小規模多機能型居宅介護に関する学習会」を開催しました。当日は、会場の県民福祉プラザ2階会議室に現在看多機事業を行っている事業所の看護師をはじめ、訪問看護ステーションや病院、看護学校などから60名もの方にご参加いただきました。前半は、日本看護協会看護師職能 II 常任理事の田母神裕美氏から「看護小規模多機能型居宅介護」について、後半は在宅看護センター結の学校沼崎美津子所長から事業の実際についてのご講演をいただきました。

講演の内容から、地域共生社会の中で地域看護が求められている役割の大きさを再認識することができ、特に、推

進するための行政との連携、利用される地域の皆様への啓蒙、大きな課題である人員確保、安心して事業運営ができる報酬体系など看護協会の活動だけでは解決できないことも数多くあることを知ることができました。

講演後参加者からは、報酬関連、指示書など現場サイドの具体的な質問をいただき、会場は「一言も聞き漏らさない」というようなムードさえ感じました。今後も委員会では、県内の看護師の皆様のために看多機に関する情報の提供をしていきたいと思ひます。ご参加された皆様ありがとうございました。

看護師職能委員会 II 天摩 典子



講師の田母神先生



講師の沼崎先生



会場の様子

第24回 あおもりシニアフェスティバル

「第24回 あおもりシニアフェスティバル」が9月3日(日)に県民福祉プラザで開催されました。今回は4年ぶりの開催となりましたが、市内および近隣の市町村から多くの方々が参加してくださいました。当協会からは東青支部3名と訪問看護総合支援センター2名が参加し、血圧測定の実施、訪問看護の紹介チラシを配布しました。当日はスタンプラリーが開催され、看護協会の出展ブースには子どもから高齢者まで210人ほどの参加者がい

らっしゃいました。

また、お子さんやお孫さんのために看護学校一覧が掲載された「看護への道」等の冊子を持ち帰る方も多くいらっしゃいました。まさに多世代交流が活発になされたイベントでした。



令和5年度五所川原市認知症フォーラム みんなでつくろう！ 認知症にやさしい五所川原市

猛暑続きで異常気象真っ只中の9月2日(土)、私たち西北五支部は昨年引き続き五所川原市主催の認知症フォーラムに参加しました。来場者数は1,000人位で15の参加団体がブースを設置し、青森県出身のタレント王林さんと人形劇金多豆蔵一座との認知症クイズを行い、大爆笑の企画もありました。

西北五支部では2つのブースを設置し、1つ目のブースはつがる総合病院皮膚排泄ケア認定看護師の野呂尚弘さんと花王(株)による「おむつの選択と正しい装着方法について」です。パンツ式おむつを展示したところ行列ができてしまい「初めてこんなおむつ見た」「昨年サンプルを使用して良かったから購入して使用しています」という来場者の声があり、110枚のプレゼント用おむつは1時間位でなくなりました。

2つ目は「キッズ白衣試着体験」のブースを設置しました。女の子は100～140サイズのワンピースの白衣(白・ピンク)にナースキャップも同様に準備しました。今となっては珍しいナースキャップですが、キッズが着用すると新鮮でとても可愛いものでした。男の子は紺色のスクラブと診察衣の100～140サイズを準備し、肩から聴診器をかけて「チビッコドクター」になりきり、写真撮影をしていました。子供はもちろん、親御さんの喜んでる表情はとても微笑ましい光景でした。

参加団体の活動紹介では、齊藤支部長から青森県看護協会と西北五支部の使命や活動内容についてプレゼンしました。

また「かんごちゃん」で来場者の歓迎をし、写真撮影や握手、ハグをする人までおり、たくさんの笑顔をいただきました。

今回、認知症フォーラムに参加し、各職能団体が連携しひとつになって地域の活動をしたことは、協会員としての使命を果たしたことになるのではないかと考えています。今後も病院外にも目を向け広い視野で活動していきたいと思えます。

西北五支部 第二副支部長 原田真輝子



かんごちゃんですPRしてきました！



青森県看護協会西北五支部ブース

看護師基礎教育を考える会

8月1日(火)に「看護師基礎教育を考える会」をリモート形式で開催しました。本会は、基礎教育4年制化の意義や必要性への理解を深めることを目的とし、日本看護協会の支援の下、秋田県看護協会との共催で実施したものです。

日本看護協会 田母神常任理事のご講演の後、青森県・秋田県それぞれの現状報告を八戸看護専門学校 副校長



リモートでご参加の皆様



講演講師
日本看護協会 田母神常任理事



青森県の現状を報告いただいた
小野寺 氏

小野寺江利子氏と秋田県立衛生看護学院 副校長 齊藤清子氏に行ってくださいました。

基礎教育4年制化は課題も山積ですが、両県合わせて93名の参加者の間で活発な意見交換が行われ、今後に向けて大きな一歩となったのではないのでしょうか。

施設代表者会議

7月27日(木)に会員所属施設の看護管理者・会員管理担当者を対象に「施設代表者会議」をリモート形式で開催しました。例年開催している本会議は、各施設でのスムーズな会員管理や入会促進を図ることを目的として開催しています。

今回は、当協会の支部長2名に「自施設での会員拡大活動」について具体的な内容を報告してもらいました。

当協会をはじめ、日本看護協会や多くの都道府県看護協会では会員数の推移が減少に転じています。会員の皆様、看護管理者・施設代表者の方々へは入会促進活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。



むつりハビリ
テーション病院
総看護師長 白濱 氏
(下北支部長)



青森新都市病院
看護部長 角田 氏
(東青支部長)

青森県健康福祉部長との意見交換会

8月3日(木)青森県庁にて「青森県健康福祉部長との意見交換会」を行い、青森県からは永田健康福祉部長他7名が出席し、当協会からは榎谷会長の他、副会長2名、常務理事3名、事務長が出席しました。

1時間という短い時間ではありましたが、看護協会からの以下3つの要望等に対し、充実した意見交換が行えたと感じています。

- (1) 看護職員の確保・定着について
「看護職員の地域偏在の解消に向けて」
- (2) 専門性の高い看護職の育成について
「特定行為研修受講者の増加への取組」
- (3) 外来看護師の質向上について
「研修体制について」



協会からの要望等に答える
永田健康福祉部長

◆令和5年度青森県総合防災訓練

令和5年8月25日(金)に、十和田市で4年ぶりとなる「令和5年度青森県総合防災訓練」が大規模に実施されました。



当協会では、初めて避難所に「母子避難コーナー」を設け、災害支援ナース2名が要配慮者である妊婦、乳児を支援しました。統監(知事)に、母子避難コーナー設置の必要性をアピールする機会となりました。

◀ テント内で、妊婦の血圧測定や腹部の切迫症状を問診、観察する災害支援ナースの坂野さん

統監(宮下知事)にアピール!



▲ テント内で、人工ミルク授乳(防災用)を支援する災害支援ナースの橋爪さん

◆令和5年度 北海道・東北地区看護協会会長及び事務局長連絡協議会

8月28日(月)に「令和5年度 北海道・東北地区看護協会会長及び事務局長連絡協議会」が山形県看護協会で開催されました。例年開催の会長連絡協議会に併せ、今回は事務局長連絡協議会を初めて開催しました。

各道県の会長・事務局長全員が一堂に会するのは今回が初ですが、日頃から情報交換等を行っていることもあり、終始和やかな雰囲気を持ち寄った課題について協議が行われました。半日という短い時間ではあるものの、密な情報交換で得られた情報は、当協会の今後の運営に大きく活かせるものだと感じています。

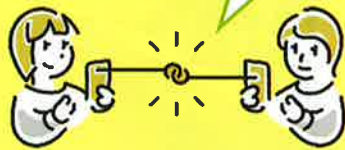


北海道・東北地区看護協会会長・事務局長
山形県看護協会会館前にて集合写真

青森県看護協会IT化への道、はじめの一步

Xさん：青看協がLINE始めるらしいよ。
Yさん：えっ？ほんとに？
Zさん：知ってる！ちょっと、私、興味あるんだ。
おともだちになってみようかな。
Xさん：んじゃ、私も(ポチッ)。
Yさん：私も(ポチッ)。

おともだち
3人追加～



という訳で、
青森県看護協会では **LINE 公式アカウント**を
始めます。

皆さまへ、最新情報を提供できるよう、職員
一同、切磋琢磨、鋭意努力(かたいなあ)し、更新
してまいります。

詳細につきましては、近日中にホームページ
でお知らせいたします。

おともだち登録をお願いします。

ニプロ 医療機器データ通信サポートシステム
HN LINE
Hospital Network Line

換気情報端末 データ連携 電子カルテ

血糖管理 血糖	バイタル管理 SpO ₂ 呼吸数 体温 血圧 脈拍	輸液管理 輸液ポンプ シリンジポンプ	連絡見守り 心拍心電波形
------------	---	-----------------------	-----------------

この広告に関するお問い合わせ先 資料請求先 **ニプロ株式会社** 大阪府摂津市千里丘新町3番26号
2023年5月作成

会員特典についての ご意見ご要望をお聞かせください。

当協会では現在、下欄記載の会員特典をご入会いただいた皆様へ提供させていただいております。

今回は「こんな特典あったらいいな」のご意見を会員の皆様からも頂戴し、今後の提供活動に反映させていきたいと考えています。件名に【会員特典】とご入力の上、アドレス tokuten@egao-park.net までお知らせください。

締切：令和5年11月30日(木)

※サービス内容は青森県看護協会ホームページでご確認ください。